

# 幻の名花 今に咲く

## 草津の寺 江戸時代に伝わる「観音寺椿」

### 埼玉の女性、古文書など研究

草津の古刹・芦浦観音寺に江戸時代、「観音寺椿」と記述された珍しいツバキがあった。現在、木は存在しないが、ツバキを研究する埼玉県の女性が、古典品種として知られる「朴伴」である可能性が高いことを突き止めた。女性が同寺に贈った苗木がこのほど赤い花を付け、かつての名花をほうふつとさせている。

さいたま市の鈴木和代さん(59)。鈴木さんは2年前、落語の元祖としても知られる京都の僧、安楽庵策伝が椿の品種についてまとめた本「百椿集」(1663)を調べた。同寺に伝わる古文書を調べたところ、1624(寛永元)年に幕府の老中が同寺に宛てた「中白椿」が無事到着した、との礼状があり、寺の資料からツバキの存在が裏付けられた。



境内で赤い花を咲かせたツバキ「朴伴」の苗木(草津市・芦浦観音寺)

## 後継品種突き止め、苗贈る

鈴木さんの調べでは「観音寺椿」は、江戸時代初期の公家の日記「時慶卿記」にも登場するなど珍重されていたが、18世紀初めごろには記述が見られなくなった。宮内庁所蔵の「椿花図譜」に描かれた「観音寺椿」の姿が、「朴伴」に酷似していることや、文書に「朴伴」の名が登場するのが、観音寺椿の記述が消える時期と重なることなどから、鈴木さんは「朴伴」が観音寺椿の後継品種ではないかとみて、一昨年、苗木1本を同寺に贈った。近江の芦浦観音寺が、中が白い椿の発祥の地であることを知ってもらおうと思った」と話す。

同寺はその後、苗木を増やして境内に植樹。現在は5本が高さ約80センチに育ち、花が見頃となっている。西川住職は「かつての名高いツバキのように育ってほしい」と期待する。

ツバキの見頃は過ぎるが、草津市観光ボランティアガイド協会の企画運営で、5月4、5日の2日間、同寺の一般公開が行われる。問い合わせはくさつ夢本陣☎077(563)3700。

(岩本敏朗)